

金沢版子ども宅食 推進事業に取り組んで

主任児童委員連絡会

会長（馬場地区主任児童委員） 吉本隆史

理事（大徳地区主任児童委員） 高崎一郎

理事（西南部地区主任児童委員） 松原靖子

“金沢版子ども宅食推進事業”とは

事業の背景

金沢市では令和3年度「金沢市子ども宅食のあり方検討会」が開催され、子育て支援に携わる団体等による協議を踏まえ、金沢市における宅食の取組み案について市長へ提言が行われました。

金沢市では提言も取り入れ、令和4年度より「拠点型子ども宅食モデル事業」を実施しました。（金沢市社協への委託）

事業の目的

周囲とつながることが難しく支援が届きにくい子どもや家庭へのアプローチとして、食材支援をツールに関係性を生み出し必要な支援につなげることを目的としています。

事業概要

対象世帯（児童扶養手当受給世帯・市社協や見守り支援団体が必要とみなす世帯）のうち利用希望者が拠点となる施設（会場）へ出向き、食材の提供を受けます。

食材の受け渡し時に、スタッフ（主任児童委員等）と対話する中で家庭状況の把握を行います。本人希望があれば、専門職による相談ブースで相談も可能です。

拠点の開設準備やフードドライブなどは、市社協会員の老人福祉施設や地域ボランティアに協力いただいています。

金沢版子ども宅食推進事業における関係者・団体



利用世帯

※主にひとり親家庭を想定

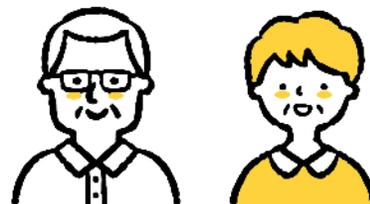
※児童扶養手当受給世帯に対し市役所から案内送付

LINE申込
拠点来場



市社協

- ・参加者受付・管理
- ・事業企画
- ・食材調達（フードドライブ依頼等）
- ・食材仕分け
- ・当日応対



民生委員・児童委員 地区社協

- ・フードドライブ開催
- ・開催協力（前日準備等）
- ・当日応対



見守り支援団体

- ・当日応対
- ・必要なケースは個別見守り支援実施



フードバンク

- ・フードドライブ協力
- ・寄附希望企業等との顔つなぎ



老人福祉施設・教育機関等

- ・会場提供
- ・フードドライブ協力



市役所

- ・対象世帯への案内
- ・関係団体へ説明等

金沢版子ども宅食推進事業 実績（令和4年度～6年度）

	実施日	世帯数		スタッフ数	相談件数	支援につながった世帯 (制度紹介も含む)
		来場	宅配			
第1回	令和4年8月28日(日) 中央金沢朱鷺の苑	50	7	30		15
第2回	令和4年10月23日(日) 中央金沢朱鷺の苑	74	10	33		29
第3回	令和4年12月11日(日) 大徳公民館	78	10	31	6	45
第4回	令和5年2月26日(日) 大徳公民館	86	15	31	15	35
第1回	令和5年6月25日(日) 金沢市立工業高校	79	18	39	11	8
第2回	令和5年8月19日(土) 金沢星稜大学	48	9	50	17	76(重複あり)
第3回	令和5年11月12日(日) 金沢市立工業高校	64	8	57	13	66(重複あり)
第4回	令和5年12月2日(土) 金沢星稜大学	67	4	47	17	76(重複あり)
第1回	令和6年8月17日(土) 金沢星稜大学	71	3	56	14	69(重複あり)
第2回	令和6年9月28日(土) 西部環境エネルギーセンター	96	4	73	13	97(重複あり)
第3回	令和6年11月17日(日) 金沢市立工業高校	66	4	54	5	36(重複あり)

子ども宅食の流れ

1. 関係者による打合せ
2. フードドライブの実施
3. 対象者への案内・申込受付
4. 当日の運営（食材提供・相談対応）

➡ 後日のふりかえり（伴走型支援）



関係者による打合せ



会場の下見には市や市社協も同行し、一緒に会場選定にあたります。

時期や段取りを決める

主任児童委員、民生委員児童委員など、地域の関係者による打合せを行います。開催の単位（校区）、スケジュール、会場の確保、フードドライブの実施、対象者へのお知らせについて決めます。

準備に必要な期間… 4～5ヶ月程度

打合せ後、開催2ヶ月前を目安にフードドライブの実施を地域にお知らせします。

その後、開催1ヶ月前を目安に対象者へ案内し、申込受付をします。

フードドライブの実施

食材や日用品等を集める

提供する食材等を集めます。実施にあたっては、金沢市社会福祉協議会のサポートを受け、回収ボックスの設置や案内文書の作成などを行います。



フォーラスに
フードドライブ
ポストを設置



地域の公民館
などにフードラ
イブコンテナを
設置

フードドライブの実績

【参考】各地区の実績

地区社協主体で期間を定め、実施しました。

7地区 合計 1, 4 4 8点 (約 5 6 0 kg)



【参考】福祉施設や企業寄付などの実績

老人福祉施設（職員有志のフードドライブ）や企業から寄付をいただきました。

13施設・企業 合計 約 3, 0 0 0点



対象者への案内・申込受付

案内について

案内は、市から対象世帯へ郵送されます。その際に右写真のチラシが同封されています。

基本的な対象者は、児童扶養手当受給世帯や見守り支援団体が必要とみなす世帯ですが、打合せを行いブロックによって対象要件を定めることもできます。

申込方法を工夫する

対象者の申込みのしやすさを考慮し、電話やメールなどで地域の主催者が受付をする方法か、金沢市社会福祉協議会がLINEを用いて受付をする方法から選択します。

このチラシを受け取った方へのお知らせ

今年度は地域で運営しています!

金沢版 子ども宅食 推進事業

KODOMO TAKUSHOKU

暮らしや子育ての悩みをひとりで抱えていませんか?
毎日がんばる親子の皆さんに
おいしいモノ & 楽しいコトをお届けします!

よって、もらって、つながって。

フード無料配布

日時 | 2024 11.17 (日) 9:30~12:00 13:00~15:30

場所 | 金沢市立工業高等学校 (金沢市秋田東1丁目1番地1)

対象 | このチラシを受け取った方 ◎要予約(先着順):右の二次元コードからLINEで申し込み

児童扶養手当受給世帯(2024年10月19日時点)、その他世帯(主任児童委員、子ども見守り支援事業の団体、市社協等からの紹介)

主催:大野地区社会福祉協議会、大津地区社会福祉協議会、金石地区社会福祉協議会
協力:金沢市、金沢市社会福祉協議会、NPO法人 子育て支援はぐはぐ そのままでいいよ、かなざわっ子nikoniko倶楽部

LINEでカンタン申し込み!

詳しくは裏面へ

参考) LINEによる申込み



案内時に事前のアンケートを実施しています。

申込み時点で活用している制度やサービスを記載いただき、当日の聞き取りに活かすものです。

アンケート回答後に、来場予約ができる仕組みになっています。

【親子の暮らしアンケート】

- ・性別 ・年齢 ・子ども宅食の参加回数
- ・子育てに関する困りごと（相談の有無）
- ・活用している制度やサービス
- ・生活支援情報の取得方法

について



当日の運営（食材提供・相談対応）

安心できる空間に

食材や日用品の提供、子ども向けワークショップの開催、弁護士や心理士などの専門職による相談ブースの設置などを通して、子育て世帯が「来てよかった」「話せてホッとした」と思えるような会場づくりに取り組みます。

各種コーナーの設置

- 1) 食材提供コーナー
- 2) ワークショップコーナー
- 3) 専門職への相談ブース
- 4) 受付・フリースペース



当日の様子



開始前の最終確認ミーティング



来場者に主任児童委員がつき、お話ししながら食材を集めます。



フリースペースでお話を伺い、必要な制度などの紹介を行います。



木材を使ったワークショップ



学生団体企画のワークショップ



仕切りのあるブースで相談可能です。

当日の感想

- ・受付の際は緊張していましたが、温かい言葉かけや対応にとてもホッとしました。
- ・子どもがワークショップを楽しんでいる中、ゆっくり相談できる環境で良かったです。
- ・つらいことが多い日々でしたが、味方がいることを感じる時間でした。涙が出ました。

参加者



協力者

- ・地区内のシングルのご家庭や、自分が把握していた状況とは異なる家庭の様子を聞き取りできる良い機会でした。
- ・好きなものを選んで楽しそうにする子どもの姿に疲れも吹き飛びました。
- ・初めてのことでしたが、ブロック内の方と協力してスムーズに実施することができました。



後日のふりかえり（伴走型支援）

必要な支援につなぐ

参加者がどんな様子だったかについても確認しましょう。対応する上で気が付いたこと、心配になったことを話し合い、専門の相談が必要と思われる場合は、金沢市社会福祉協議会へ連絡し、必要だと思われる支援につなげましょう。



その後の対応

市や市社協、見守り支援団体、地域関係者で支援が必要と思われるケース（1回あたり15ケース程度）について共有し、支援の方向性を検討します。

適切な支援機関から本人にアプローチし、制度やサービスとつながるように働きかけます。

今後の見守りや支援につながった事例—学習支援

世帯状況

Aさん 30代（4人家族：子10、12、13歳）

事前アンケートより

- ・仕事に関する悩みがある
 - ・経済的に厳しい、不安
 - ・子どもの学習面に不安
- と回答

当日の様子

長男13歳（中1）と案内係の対話の中で、部活動でバスケットボールをしていることが分かった。そこで、バスケットをしている大学生スタッフにつないだところ、会話の中で「勉強について悩んでいる」「塾に行きたいが恥ずかしくて行けない」と打ち明けた。

案内係の対応

隣で会話を聞いていた案内係より、長男に対して金沢市社会福祉協議会で学習支援教室が開かれていることを伝えたところ、本人が興味を示したため、個別ブースでより詳しい説明を受けてもらった。

その後

後日、長男は学習支援教室に参加し、試験の平均点が上がり、学習面の成長が見られたそう。

その後、同ブロックで開催された子ども宅食に参加されたAさんから感謝の言葉をいただいた。

今後の見守りや支援につながった事例—主任児の見守り

世帯状況

Bさん 40代（6人家族：子3、9、11、12、14歳）

事前アンケートより

- ・経済的に厳しい、不安
- ・仕事や用事があっても預けられない
- ・子どもと関わる時間がもてない
- ・仕事に関する悩みがある
- ・子どもとの関係がよくない と回答

当日までの経過

生活福祉資金を利用しているなど経済的にひっ迫している状況。以前開催された子ども宅食で、子育て支援団体の継続的な支援が決定したものの、仕事をしている母親に会えないことが続いていた。

案内係の対応

当日、案内係を務めた主任児童委員より同ブロック内他地区で開催している子ども食堂の情報提供を行った。

その後

後日、子ども食堂へ参加。仕事で不在がちの母親だったが、自分の都合のいいタイミングに子どもと一緒にいき、同じ時間を過ごせる場所の存在が大きいと喜んでもらった。

本来の地区の主任児童委員とも顔つなぎができたことにより、地域での見守りネットワークが構築された。

今後の見守りや支援につながった事例—情報提供

世帯状況

Cさん 30代（2人家族：子3歳）

Dさん 30代（4人家族：子2、4、6歳）

令和6年能登半島地震で被災し、七尾市から自主避難してきた世帯。シングルマザーの友人同士で同居している。周囲に知り合いもおらず、互いに協力して子育てをしているが、事前アンケートにはそれぞれ「経済的に厳しい」「子どもと関わる時間がもてない」「親自身の心身の具合がよくない」など複数回答された。

その後

お互い相談できるところがあることで、一人で・二人で思いつめすぎることのない環境づくりができた。互いに良い距離感で子育てができていたとのこと。

当日の様子

Cさんは、自身の子どもをDさんの子どもと比較し、言葉が遅いのではないかと気に病んでいることを案内係に打ち明けてくれた。Dさんは、転職・転居など大きな環境の変化により、精神的に落ち着かず、子どもに対して余裕がない対応をしてしまう自分がつらいとのお話を聞かせてくれた。

案内係の対応

聞き取りの中で、それぞれに相談相手や地域の居場所が必要なのではないかと判断し、心理士相談ブースをご案内した。

地域の居場所として、見守り支援団体が開いている場所などを複数紹介した。

まとめ

宅食を通じて地域全体がつながる

ひとり親家庭や支援が必要と思われる世帯へ食材提供を通じて主任児童委員とつながりが出来る機会です。

ブロック単位や中学校単位で実施するため、地区同士の結束力も高まります。

フードドライブの実施にあたり、地域が盛り上がる効果も期待されています。

主任児童委員（児童委員）活動の充実

今まで気にかけていたけれどお話する機会が無かった世帯や離婚等に伴う現況が変わった世帯などとお話する機会になります。

親と子どもが一緒にいるタイミングは、話を聞いたり、様子を見るうえで関係性が分かるチャンスです。今後の委員活動における貴重な情報源になるといえます。

今後の展開

子ども宅食は、実際に来場された参加者の声からも必要性が非常に高い事業です。「子育て、子育てを応援する地域づくり」「地域の子育て応援団」として、市内全域にこの取組みが拡大されることを期待しています。